第9回 RINK 釧路まちづくり交通戦略会議 意見要旨

■日 時：2024年（令和6年）5月29日（水）14：00～15：30

■名 簿：末頁のとおり

■議 事

- (1) これまでの振り返りと今後のスケジュール
第8回交通戦略会議の議事概要
釧路都心部まちづくりに係る今後の想定スケジュール
- (2) 第3回都心部まちづくりフォーラムの開催結果報告
- (3) 釧路駅周辺の再整備方針について
- (4) 事業計画編（仮）の骨子について
- (5) 交通戦略（社会実験の取組）について
- (6) その他

■議事（1）これまでの振り返りと今後のスケジュール

第8回交通戦略会議の議事概要

釧路都心部まちづくりに係る今後の想定スケジュール

■議事（2）第3回釧路都心部まちづくりフォーラムの開催結果報告

（杉村委員）

- ・鉄道高架＝広場の創出のような印象を受けており、違和感を持っている。現存する他の広場に人がいないことを考えると、広場をつくっても賑わいが生まれるのか疑問である。
- ・ワークショップで出された広場の使い方のアイデアも、そのような使い方本当に賑わいが生まれるのか、疑問に感じられるところがある。

（事務局）

- ・駅周辺のまちづくりにおいては、鉄道高架化後の余った鉄道用地を有効活用するため、広場だけでなく、使いやすいバスターミナル、タクシープール、道路空間などの公共用地を確保するとともに、民間活力による土地利用も視野に入れた検討を継続的に進めている。

（杉村委員）

- ・検討の進め方や情報の出し方が広場先行になっているような気がしているため、鉄道高架に関する機運がうまく盛り上がるような工夫をお願いしたい。

（高見委員）

- ・昭和60年代以降、国鉄解散後の駅周辺開発で「多目的広場」と言われる広場が全国に50箇所ほど国の補助制度の後押しもあり整備されたが、つくっただけで使われていないのが現状となっている。
- ・昨今流行りの「ウォークブル」についても、日本人にとっては歩くことよりも休む場所の方が重要と考えている。例えば、駅周辺の休憩スペースは、ショッピングセンター内の子どもが遊べる快適な休憩場所に対抗する空間をつくっていかなければならない。

- ・市民のアイデアを集めることも重要だが、そのアイデアを具現化する意欲や行動力を持っている市民をどうやってまちづくりに引っ張りこんでいくかが更に重要だと思う。

(高野進行役)

- ・昨年度の卒業論文で「まちの中心部はどこですか？」を道内の地方都市で調査した結果、釧路市では、まちの中心部＝「イオン」と認識されているという結果となった。
- ・イオンのなかは冷暖房完備、歩きやすく、時間をつぶせてぶらぶら楽しめる空間であるため、地元の方々が集まる。一方、このような施設は将来的に撤退する可能性があること、また、来街者にとって郊外の施設に行くことは大変であることを踏まえると、まちの中心部を、今までの歴史・伝統なども踏まえた形でつくっていくことが重要である。
- ・まちの中心部をつくっていくには、広場だけではダメで、公共施設や民間施設を誘致していくことを合わせ技でやっていかないといけない。

■議事（3）釧路駅周辺の再整備方針について

(松浦委員)

- ・交通シミュレーションにおいて「信号交差点の信号現示を現状踏襲」としているが、この現状はどのように設定しているのか。なお、今回対象としている信号機は、交通量によって信号現示を自動調整する信号機となっている。

(事務局)

- ・信号現示の現況値は、2年前に実施したピーク時間帯の信号現示調査に基づく数値を採用している。
- ・信号現示を自動調整していることを認識していなかったため、信号現示の調整による改善策の検討ではなく、他の手段を用いた改善策を検討していきたいと考えている。

(高野進行役)

- ・自動制御型の信号機も万能ではない。歩行者の横断に最低限必要な時間を確保することも考えないといけないため、その辺も考慮していただきたい。

(事務局)

- ・信号現示の設定等については、交通管理者（警察）と連携を図りながら検討を進めていきたい。

(杉村委員)

- ・鉄道高架の必要性について、当初は「防災・減災」の視点が大きく打ち出されていたと思うが、そういった視点での整備内容はこれから検討される予定なのか。

(事務局)

- ・現在の避難場所や避難施設を有効活用していくことを基本として、今後、駅周辺において避難場所や避難路などの防災機能を新たに設ける必要があるかは、防災部局と協議しながら検討していきたい。

(高野進行役)

- ・防災・減災は、重要な視点である。津波災害に対する関連計画も踏まえたうえで、避難場所の確保や避難の円滑化という観点で、駅周辺整備のなかに防災・減災の視点を加えていくことは重要であり、引き続き検討いただきたい。

■議事（４）事業計画編（仮）の骨子について

(高野進行役)

- ・事業計画編の策定スケジュールはどのように考えているのか。

(事務局)

- ・策定に向けた検討は今年度から開始するが、北海道が現在進めている補助調査などもあり、各種関係機関との調整が必要なため、今年度中に策定することは想定していない。
- ・検討の進捗状況を見ながら、適切なタイミングで計画をとりまとめていきたいと考えている。

(高野進行役)

- ・「都心部の空間デザイン・利活用の指針」は新たな内容になると思うが、これも事業計画編の中に一体的に組み込むということか。

(事務局)

- ・今のところ一体的に組み込むことを想定している。ただし、スケジュール的に他の項目と同時公表が難しい場合は、別冊という形で公表していくことも考えている。

(高見委員)

- ・駅周辺の土地区画整理事業を想定している範囲を具体的に描き込み、その周辺は何も描かないというのは無責任だと思っている。事業範囲の外側も含めたエリアを、こういうまちにしたいというメッセージとして、ビジョンや絵を描いていくことが重要である。
- ・例えば、横浜市のみなとみらいの計画では、まち全体に建物が建てられた状態のイメージを最初から示しておき、具体的に事業が動けば後からそれを反映する形でイメージを更新してきた。
- ・駅周辺の整備が進んだら、それが連鎖して北大通沿道がこんなまちになるということ分かる絵を描いておくことが必要であり、絵があることで関係者とどんなまちにしたいかの議論ができる。
- ・そして、その絵に近づくために社会実験を実施したり、民間事業者に営業をかけたりにしていくことになると思うので、言葉だけの曖昧なイメージではなく、絵として具体的に描いていくことが重要である。

(柿田委員)

- ・高見先生がおっしゃったように、駅周辺整備外側の将来ビジョンが見えてきていないと思う。
- ・関係者の中には「駅周辺整備の蚊帳の外」のような印象を持っている方もいるのではないかと思うので、エリア全体のビジョンを、絵として描いてもらえると良い。

(事務局)

- ・駅周辺だけでなく、リバーサイドまでのビジョンを考えていくというところで、リバーサイドの更なる活用を検討している港湾部や、中心市街地活性化の部局と連携をしながら、都心部全体のビジョンを検討していきたい。

(杉村委員)

- ・鉄道高架に対する市民の盛り上がり欠けるのは、都心部全体のイメージが共有されていないことも理由なのではないかと思う。絵を描いていくにあたり、庁内各部署と議論を深めていただきたい。

(事務局)

- ・情報発信の仕方や庁内連携の点に課題があったと考えている。市民の皆さんに都心部まちづくりに関心を持っていただき、機運を高めていけるよう、計画づくりに力を入れていきたいと考えている。

(高見委員)

- ・駅からリバーサイドまでの広大な面積がアスファルトになっている。今後の都市活動の需要などを考えると、将来も北大通沿道にビルがびっしり建ち並ぶということも難しいと思うので、現状の「閑散」としている雰囲気、「広々」としている雰囲気に変えられないかなと思っている。
- ・北海道のまちは幸い道路が広いため、「広々」とした市街地として捉えることも考えていただけたらと思う。

■議事（５）交通戦略（社会実験の取組）について

(高見委員)

- ・社会実験の影響を検証する明確な実験でないのであれば、市民の方々がどうやったら関心を持ってくれるかという方に注力した方がよい。
- ・話題性という点では、極端な交通規制をかけてみるなどの取り組みも必要だと思う。

(高野進行役)

- ・今年度、札幌市で道路空間利活用の社会実験を実施する予定であり、アイデアの1つとして、オープンハウス形式での周知と市民意見の把握を予定している。このような周知活動やリアルな市民意見の把握も、社会実験の1つの取組として検討いただければと思う。

(石山委員)

- ・例示された中央図書館前のバス停周辺の社会実験では、交通への影響・話題性の両面で規模が小さすぎるのではないかと。

(事務局)

- ・社会実験の開催場所については現段階で未定であり、今後検討していく。
- ・社会実験は来年、再来年と続けていって、例えば、道路管理者や交通管理者の方々と相談しながら、北大通の一車線を歩行空間化する社会実験をやっていく、ということも視野に入れている。

(高野進行役)

- ・社会実験が9月想定ということだが、社会実験前に交通戦略会議で議論する機会があるのか、それとも事後報告になるのか。

(事務局)

- ・今後のスケジュールについては事務局で検討のうえ報告する。

(高野進行役)

- ・社会実験は、市民がやりたいことを実現するという視点も重要だが、それが都心部全体のまちづくりに、また、市民の皆さんにどのように響くのかを考えて、検討を深めていただきたい。

■ (6) その他

(高見委員)

- ・スケジュールに記載されている、今年度の「駅舎のデザイン検討」はとても重要だと思う。
- ・通常の連続立体交差事業の枠で淡々と駅舎を設計すると、平凡な駅舎ができることが多い。釧路駅を多くの人の目を惹く駅舎にするためにも、JR北海道や関係者の皆さんと相談しながら、旭川駅のような成功例をつくりたいと思うので、ご協力いただきたい。

(杉村委員)

- ・駅舎のデザインは、誰がどのように設計するのか教えていただきたい。

(高見委員)

- ・連続立体交差事業の一般的な進め方でいくと、事業主体の北海道が、JR北海道に鉄道高架及び駅舎の設計を発注する形が想定される。

(中島委員) ※戸川委員の代理

- ・旭川駅の連続立体交差事業でも同様の形で進められたと記憶している。釧路駅がどのような形になるかは、北海道や釧路市と調整しながら決めていきたいと思う。

(事務局)

- ・皆様、本日はお忙しいところ本会議にご出席いただき、ありがとうございました。
- ・今年度は、事業計画編の検討や社会実験の実施などを進めていく予定。特に社会実験を進めていく上で、今後関係する委員の皆様と個別にご相談させていただきたいと考えているので、その際はよろしく願いいたします。

以上

■第9回 RINK釧路まちづくり交通戦略会議 名簿

(敬称略)

	所属	役職	氏名	備考
1 (進行)	北海道大学大学院 工学研究院 土木工学部門	教授	高野 伸栄	釧路都心部まちづくり推進協議会(準備会) 座長
2	法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科	教授	高見 公雄	釧路都心部まちづくり推進協議会(準備会) 委員
3	北海道旅客鉄道(株) 釧路支社	執行役員 釧路支社長	戸川 達雄	中島次長が代理出席
4	くしろバス(株)	参事	畑毛 正文	
5	阿寒バス(株)	営業本部長	須田 広伸	
6	釧根地区ハイヤー協会	事務局長	鎌田 浩宣	
7	釧路商工会議所 地域開発委員会	委員長	杉村 荘平	
8	釧路ビジネスサポートセンター k-biz	センター長	澄川 誠治	欠席
9	釧路第一商店街振興組合		三島 基浩	欠席
10	くしろ北大通商店街振興組合	理事長	佐藤 公一郎	欠席
11	釧路末広仲見世通商店会	会長	岡野 公夫	欠席
12	釧路駅前商店会	幹事	岡部 源三	欠席
13	釧路駅西商店街振興組合	理事長	柿田 英樹	
14	釧路市共栄大通商店街振興組合	理事長	小林 嘉明	欠席
15	若松町商店街	会長	佐藤 利夫	欠席
16	釧路市商店街振興組合連合会	事務局長	小澤 謙次郎	欠席
17	一般社団法人 釧根地区トラック協会	専務理事	野村 和人	欠席
18	一般社団法人 釧路観光コンベンション協会	専務理事	石山 巖	
19	北海道開発局 釧路開発建設部 道路計画課	課長	平 記好	佐藤特定道路事業対策官が代理出席
20	北海道 釧路建設管理部 事業室 道路課	課長	小南 貴範	宮木主査が代理出席
21	北海道運輸局 釧路運輸支局	首席運輸企画専門官	新堂 聡史	欠席
22	北海道警察釧路方面本部 交通課	課長補佐	松浦 大史	
23	北海道釧路方面釧路警察署 交通第一課	課長	近江 千晶	
24	釧路市 総合政策部 都市経営課	課長	阿部 豊	
25	釧路市 総合政策部 都市経営課	政策推進主幹	司口 幸治	
26	釧路市 総合政策部 都市経営課	広域行政主幹	大物 義高	欠席
27	釧路市 住宅都市部 都市計画課	課長	長山 道憲	
28	釧路市 産業振興部 商業労政課	課長	木村 禎	欠席
29	釧路市 産業振興部 商業労政課	中心市街地活性化主幹	川田 隆司	
30	釧路市 産業振興部 観光振興室	室長	鈴木 紀子	滝本総括係長が代理出席
31	釧路市 都市整備部 (公園緑地課)	次長	高橋 知克	
32	釧路市 都市整備部 (道路河川課)	次長	山口 透	